

学界消息

史学研究会関係

史学研究会特別例会 七月二日(土)  
京大文学部第一教室

詳細は本誌一七二頁以下に掲載

国史関係

読史会春季大会 七月三日(日)  
京大薬友会館講演室

若狭早瀬浦歩行商人について 今井美智子

文政六年の国訴について 朝尾 直弘

中世末期の瀬瀨庄について 熱田 公

神宮経済の基盤とその変質 村井 康彦

畿内庄園の成立について 平岡 定海

近世瀬戸内塩田開発の諸問題 河手 龍海

大和王籠寺の祠堂銀貸付について 小野恵美男

神婦小夜衣について 船津 勝雄

明治前期の労働運動 山本 四郎

会の終了後、楽友会館バーラーにて懇親会が行われ、多数参加し、和氣籠々のうちに閉会した。

東洋史関係

京都大学大学院懇談会 七月十六日(土)午後二時  
陳列館演習室  
後漢江淮の水稲技術 米田賢次郎

七月八日(金)午後一時  
漢代の地方文化 法経第五教室  
地理学関係 勞 幹

地理学関係

紀ノ川・吉野川流域総合調査

榎田川・吉野川・紀ノ川構造谷の交通系を基本課題とする歴史地理学的総合調査は、

昨年の榎田川調査にひきつづき、八月二十二・二十五日にわたり紀ノ川・吉野川流域に京都大学教職員を中心に約三十名のメンバーで展開された。参加者は京都大学織田・藤岡両教授をチーフとし、奈良女子大・京都学芸大・和歌山大・立命館大にも及び、交通・人口・集落・農林業・工業・社会の各分野にわたり、古文書等の文献探訪や聴取調査・野外踏査に多大の収穫をあげた。

考古学関係

「支那古玉図録」の発刊

今般「考古学資料総編第四冊」として、梅原教授の編纂による右記の図録が刊行された。

編集後記

隔月刊実施以来二ヶ年、ここに共同体特集として、諸氏の玉稿をあつめ二〇〇頁の大冊をお送りすることができたのは喜びにたえない。時代区分・地域区分のシンポジウムと共に新しい試みとして大いに御批判をおきかせ願ひ度い。とにも角にも順調な刊行が進む中で、編集部でははや来年の特集プランを考へている。お智慧をおかし下されば幸甚である。さて次の我々の願ひは、諸賢の多数の御来会によつて大会を最も意義あるものたらしめることである。(上横手)

「お知らせ」 会員には本号を百円でお頒ちしました。

史 林 (第三八巻 第六号)

一九五五年十月二十五日印刷  
一九五五年十一月一日発行  
定価二百三十円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部内

理事 長 振替京都五一五番  
編輯主任 原 隆秀  
赤松 俊秀

印刷所 中村印刷株式会社  
京都市下京区七条御所ノ内東町三九